

## 新リサーチでルテインが皮膚ダメージを防ぐ可能性が示される

自然の抗酸化物質であるルテインが有害な太陽光線がおよぼす皮膚ダメージを防ぐ可能性を持つことがはじめて明らかになりました。

コーネル大学・ウェイル医学校の皮膚科教授兼医科長であるリチャード・グランSTEIN博士率いる研究グループは、動物モデルにおいてルテインに紫外線が皮膚におよぼす有害作用をある程度防ぐ役割があることを実証しました。また、ルテインの光を吸収する特性により、皮膚が紫外線にさらされた場合、免疫システムの正常反応を維持する助けになることを示す証拠も見出しました。2001年5月、国際研究皮膚科学会において、同博士はこの知見を発表しました。

標準的な実験プロトコルを用いて、グランSTEIN博士らは数グループのマウスにルテインを与えました。ルテインを0.4%添加した飼料を与えられたグループは、紫外線に照射された後の皮膚の炎症および腫脹反応が大きく軽減されていました。0.04%添加グループにおいても、無添加グループの免疫システムが紫外線により抑えられたのと比較すると、ある程度ダメージを免れていました。

今回使用されたのは、研究のスポンサーであるケミンフーズ製造のFloraGLORルテインです。1994年、同社は野菜に自然な状態で含まれるものと同質である、唯一の純正ルテイン製造プロセスにおいて特許を取得しました。

自然生成されるカロテノイドであるルテインは、ホウレンソウやケール、コラードや他の葉状緑色野菜に含まれています。10年ほど前にはルテインが健康にとって有益であることはほとんど知られていませんでした。しかし、1994年のハーバード大学における研究で、ルテイン毎日6mgを摂取する人は加齢黄斑変性(AMD)のリスクが57%軽減されることが明らかになり、これが契機となってルテイン研究が広く行われるようになりました。FloraGLORルテインはビタミンおよび栄養補助食品の原料として一般に利用されています。

ルテインが皮膚ダメージにおよぼす影響についての画期的な研究により、この抗酸化物質が眼と同様皮膚も守る可能性があることが示されました。これは太陽光線のダメージから皮膚をさらに守るために、日焼け止めや他製品にルテインが添加される可能性をあらゆる重要な結果です。

この研究の概要については <http://sid.abstractcentral.com/> を参照ください。

2001年5月9日